

◎東南アジアの前近代史(1)

a. ヴェトナム(北部)の諸王朝 (p61, 68, 84, 98, 162, 163)

- ①前3～1世紀、[1 **ドンソン**]文化＝独自の青銅器・鉄器文化 ←**中国の影響**
銅鼓・鉄製農具
- ②中国の支配を受ける
前3世紀、秦の始皇帝、[2**南海**]郡など3郡を設置

前2～1世紀、漢の[3 **武帝**]…南越を滅ぼし、日南・交趾など9郡を置く
→後1世紀、徴姉妹の反乱発生
→唐代まで、北部中部ベトナムを支配 ※安南都護府設置P81
- ③ [4 **李**]朝 ([5 **大越**]国) 11世紀、中国の政治的混乱(五代)を利用しつつ独立
宋の侵入をくい止める
- ④13世紀 [6 **陳**]朝 [7 **モンゴル**]の侵入を撃退
固有の文字([8**字喃(チュノム)**])を使用
- ⑤15世紀 [9 **黎**]朝 明(永楽帝)の侵入を受ける→明を撃退した黎利が独立
中国文化(朱子学)の受け入れ、南進政策→[10 **チャンパー**]を征服
南北に分裂していく
- ⑥1771 [11 **西山(タイソン)党**]の乱発生→黎朝滅亡、西山朝(阮氏)成立

ヴェトナムの北部では、前3～1世紀[12**ドンソン**]文化という独自の青銅器・鉄器文化が成立していたが、中国と隣接していることもあって古くからその侵入に苦しめられた。前3世紀後期、春秋戦国の混乱をおさめた[13**秦の始皇帝**]はこの地に[14 **南海**]郡など3郡をおいてその支配下におき、前2～1世紀あらわれた漢の[15 **武帝**]は中国南部にあった南越を滅ぼし、日南・交趾など9郡を置いた。こうした動きに対し、後1世紀、徴(**チュン**)姉妹の反乱なども発生したが、唐代まで中国の諸王朝が北部中ヴェトナムを支配するという状態は変わらなかった。

こうした状態に変化が起きたきっかけとなったのは10世紀である。10世紀初頭、[16**唐**]が滅亡し中国が[17 **五代十国**]の混乱時代を迎えると、この地では自立の動きがたかまった。11世紀に成立した[18 **李**]朝は国号を[19 **大越**]国と定め、中国統一を実現した[20 **宋**]の侵入をくい止め、独立を維持した。この王朝は13世紀[21 **陳**]朝にかわった。この王朝でも中国からの自立の動きがつづき、[22**チュノム(チュノム)**]とよばれるヴェトナム固有の文字が使用された。13世紀には中国から[23**モンゴル(元)**]の侵入をうけたがこれを撃退した。しかしその後、この国の国力は衰え、15世紀初頭にはいったん[24**明**]の侵入とその支配を許した。しかし黎利が明を撃退して再び独立を達成[25**黎**]朝を打ち立てた。そしてヴェトナム南部の[26 **チャンパー**]を征服、領土を南に広げた。しかし17世紀以降、内部の対立が激化、18世紀後期には[27 **西山党**]の乱が発生、黎朝は滅亡した。

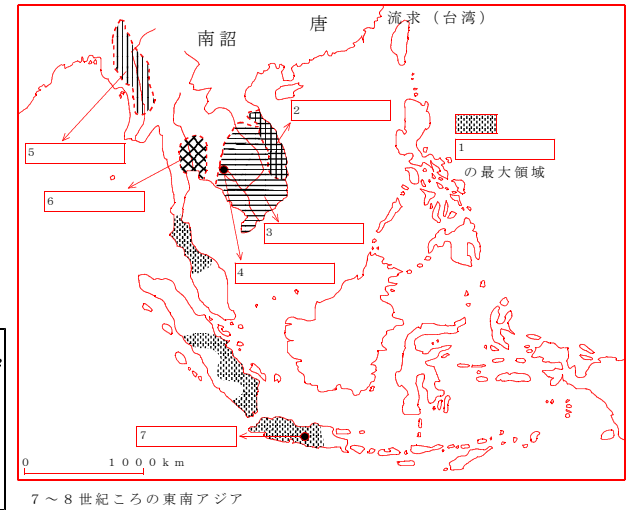
b. メコン川下流の古代王国 (p60, 61)

- ①「海の道」にそって古代国家の成立
(1)[28 **扶南**] (1C末～8世紀) …[29 **メコン川**]下流域に建国、人種系？
- (2)[30 **チャンパー**] (林邑、のち環王、占城) …ベトナム中部 2～15世紀 チャム人 中継貿易

- ②農業国＝[31 **カンボジア**](真臘)
6世紀建国、扶南を併合し大国に
→15世紀以降は小国に
全盛期…9～13世紀(古代クメール帝国)、
拠点[32**アンコール**]地方

[33**アンコールワット**](ヒンドゥー教→仏教寺院へ)、アンコール＝トム(王宮遺跡)

アンコールワット…12世紀、[34**カンボジア**]王国の首都アンコール地方に建てられた寺院、当初は[35 **ヒンドゥー**]教寺院であったがのち仏教寺院となった。浮き彫りが有名



中国とインドの二大文明圏に囲まれた東南アジアでは両文明圏を結ぶ[36 **海の道**]にそって古代国家が生まれていた。とくに1世紀末にはメコン川下流に人種系が不明の[37**扶南**]、ヴェトナム中南部にはチャム人の[38**チャンパー**]が建国され、ともに海上交易で発展した。他方、カンボジア内陸部では6世紀[39 **カンボジア**]が建国され、扶南も併合、9世紀最盛期を迎えた。この時期には王城[40 **アンコール**]を中心に仏教文化が栄えた。とくに[41**アンコールワット**]は世界的にもよく知られている。

c. 諸島部の変容 (p61, 62, 98)

- ①[42 **シュリーヴィジャヤ**]王国(室利仏逝 7～14世紀) [43 **スマトラ**]島東南部中心
首都パレンバン

[44 **大乘**]仏教が発展→7世紀後半 唐の[45 **義浄**]が「南海寄帰内法伝」を記す。
[46 **マラッカ**]海峡をおさえ、海上交易を支配
- ②[47 **シャイレンドラ**]朝(8～14世紀) ジャワ島中部に建国→インドシナ東岸まで進出
仏教の発達＝[48 **ボロブドゥール**]遺跡を残す
- ③[49 **マジャパヒト**]王国(13世紀～16世紀) ジャワ島東部から台頭
[50 **ヒンドゥー**]教国、モンゴルの遠征を利用し台頭、[51 **鄭和**]の遠征で明に朝貢

海の道に沿って、インド方面から[52 **仏**]教や[53 **ヒンドゥー**]教、のちには[54 **イスラーム**]教などが伝えられてきた。海の道にかかわってもっとも重要な交通の要衝となったのは[55 **マラッカ**]海峡である。7世紀、この海峡南西側の[56 **スマトラ**]島に[57 **シュリーヴィジャヤ**]王国が成立、[58 **大乘仏教**]が栄え、唐の[59 **義浄**]もインド留学に際し、この地を訪れた。仏教はこの地から東のジャワ島へと伝わり、8世紀に成立した[60 **シャイレンドラ**]王国では壮大な仏塔からなる[61**ボロブドゥール**]遺跡が作られた。

ジャワ島は13世紀[62 **モンゴル**]の攻撃を受けた。これをきっかけにジャワ島東部では[63 **ヒンドゥー**]教国の[64 **マジャパヒト**]王国が成立、15世紀には明の[65 **鄭和**]の遠征を受け、朝貢した。